

日本投資環境研究所 個人投資家向け IR セミナー 質疑応答（サマリー）

(2025年2月21日(金))

Q 中国経済の低迷は何が原因でどの程度継続すると想定しているか。

A 不動産不況に端を発した消費低迷が継続しており、中国政府主導の景気刺激策の効果も限定的。半導体関係や海外展開の案件など一部受注が継続している市場もあるが、全体の低迷を補う程ではない。2017~18年度に当社の業績をけん引したレベルまで中国国内の需要が回復することは当面ないと考え、米国市場や中国メーカーによる国外向けの投資案件の獲得に注力する。

Q “MOTOMAN NEXT”の販売価格は AI 非搭載の従来型ロボットより高い設定にしたいとのことだが、NVIDIA 製 GPU のコストが相当高いと思う。しっかり利益は確保できるのか。

A GPU が他の半導体と比較してそれほど高額ということはなく、ロボットのコスト構成を大きく変えるほどではない。また各関節部に搭載されている高性能な AC サーボモータなどを内製するなど外注コストを抑えている。一方、“MOTOMAN NEXT”によって実現する高付加価値なソリューションをお客さまに提供することで、しっかりと利益を確保していく計画だ。

Q 個人投資家向け説明会を増やす方針はあるか。

A 政策保有株売却の流れを受け、個人投資家の方に当社株をぜひ保有して頂きたいと考えている。25年度は今年度以上に積極的に個人投資家の方への説明やイベント開催を行ってきたい。

Q “i³-Mechatronics”と“MOTOMAN NEXT”に非常に力を入れて取り組んでいるとのことだが、どれぐらい成長余地があるのか、例えば想定する市場規模、年平均成長率等があれば教えてほしい。

A “i³-Mechatronics”は当社の AC サーボモータ、インバータ、ロボットを活用し、工場の生産ラインの一つの単位である「セル」のデジタル管理を行い生産性改善に貢献するというもので、生産ラインで実際に動く製品をグローバルに販売する当社ならではのコンセプトである。あくまでも“コンセプト”なので、市場規模や年平均成長率をお伝えすることは難しいが、現在、全営業部員がこのコンセプトに則り販売活動を行っており、過去数年の利益率向上に一定程度寄与してきたと考えている。“MOTOMAN NEXT”は、今まで人の判断が不可欠とされてきた「未自動化領域」を切り開くための製品であり、物流・土木・ヘルスケア・農業・小売りをはじめ 1 次産業から 3 次産業まで様々な市場での多種多様な作業が対象になる。自動化が比較的に進んでいると言われる自動車工場ですら、自動化率は現在 20-30%程度であり、自動車以外の産業ではほぼゼロに近い水準なため、“MOTOMAN NEXT”のポテンシャルは非常に高いと考えている。現在、各業界のトップメーカーとのプロジェクトを二十数件進めており、お客さまからの評価も高い。まずは導入の事例をしっかり作ってきたい。